

3日目

400㉾に出場した和田は、準決勝で最高の走りを見せ、高校以来の自己ベスト更新となる53秒22をマーク。駒大短距離陣としては2年ぶりの決勝進出となり、昨年あと一步で届かなかった念願のファイナリスト入りとなった。また、1500㉾での三連覇を最後の最後で打ち碎かれ4位入賞と表彰台を逃した大坪は、覇者のプライドと無念を背負い、1年生時以来となる800㉾に出場。序盤から落ち着いた走りでもレースを引っ張り、ラスト200のスパートで後方を引き離すと、三組目一位となり決勝へ駒を進めた。和田、大坪が最終日への決勝へとつなぎ、入賞の期待がかかる。

この日に予定されていたフィールド競技、円盤投げは雨の為延期となった。エントリーされていた齋藤は、自身で色々研究するなど、競技に対しての熱意は誰にも負けていない。まだ上位入賞には一步届かないが、地道な努力が報われる日は、そう遠くはないはずだ。来年は4年生。学生最後の大会に期待したい。(長)



4日目

最終日となるこの日は各種目の決勝が行われ、声援にはより熱がこもり、会場全体は一日中緊張感に包まれた。

ハーフマラソン決勝には堺と太田が出場。堺は序盤から森脇(神大)ら先頭集団に入り込み、レースを優位に展開。堺はその後ペースを崩さず、4位でスタジアムに姿を現す。最後は粘りのある走りで逆転。3位でゴールし、表彰台に登った。実力をみせつける一戦となった。

5000㉾決勝には宇賀地と豊後が出場。レース中盤、宇賀地が先頭に立ち、次点で後輩の背中を追いかける豊後の姿があった。しかし、高橋(城西大)らの追い上げにより、力敵わず宇賀地は3位で終わる。優勝を同じ一年に持っていかれたということもあり、表彰台では悔しい表情が見受けられた。今回の悔しさを励みにし、次回、大きく成長した姿に期待したい。

一方、優勝が期待されていた800㉾決勝の大坪は、結局6位となった。(清)

| 種目 | 順位 | 氏名 | 記録 |
|--------------|--------|----------|----------------|
| 400m予選 | 5位 | 和田康就(国4) | 50秒24 = 準決勝進出 |
| 400m準決勝 | 8位 | | 51秒52 = 準決勝敗退 |
| 10000m決勝 | 5位 | 宇賀地強(法1) | 29分26秒16 |
| | 8位 | 豊後友章(商3) | 29分39秒42 |
| | 23位 | 深津卓也(経1) | 30分17秒89 |
| 3000m S C 予選 | 1組 10着 | 岩本雄樹(経1) | 9分21秒87 = 予選敗退 |
| | 2組 15着 | 我妻伸洋(国2) | 9分21秒87 = 予選敗退 |
| 1500m予選 | 2組 5着 | 大坪祐樹(商4) | 3分56秒35 = 決勝進出 |
| | 3組 1着 | 高林祐介(歴1) | 3分59秒03 = 決勝進出 |
| 1500m決勝 | 3位 | 高林祐介(歴1) | 3分54秒75 |
| | 4位 | 大坪祐樹(商4) | 3分54秒75 |
| 800m予選 | 3組 1着 | 大坪祐樹(商4) | 1分54秒44 = 決勝進出 |
| 800m決勝 | 6位 | | 1分55秒13 |
| 400m H 予選 | 2組 3着 | 和田康就(国4) | 54秒29 = 準決勝進出 |
| 400m H 準決勝 | 2組 2着 | | 53秒34 = 決勝進出 |
| 400m H 決勝 | 6位 | | 53秒95 |
| ハーフマラソン決勝 | 3位 | 堺晃一(法3) | 1時間04分56秒 |
| | 10位 | 太田行紀(商2) | 1時間07分09秒 |
| 円盤投げ | 22位 | 齋藤寧(歴2) | 32m54 |
| 5000m決勝 | 3位 | 宇賀地強(法1) | 14分14秒60 |
| | 9位 | 豊後友章(商3) | 14分17秒38 |